

目的：漢方医学に生活習慣病という言葉はない。様々な病気を生活習慣という観点から捉えるなら「未病を治す」という生活習慣病（一次予防）を意味する概念がある。漢方治療は検査機器のない時代に大系化された医学で、高血圧という概念は存在しない。漢方治療において、患者を病名のみで分類治療するのではなく、病態を独自の症候群として捉える。特定の症候群に対応して適当な漢方薬を選択使用した場合に比較的高い治療効果を認めることが経験的に知られている。特定の症候群に有効な漢方薬を用いる基準などを「証」と呼び「随証療法」を行う。現在、高血圧治療の目的は心血管系合併症の予防であり、また心不全や狭心症などの治療である。漢方治療においても同様の目的で治療を行う。患者の自覚症状と全身的所見を治療対象として「心身全体の安定をはかる」ことを第一義的な目的として血圧が正常化する事が期待される。方法：降圧剤で血圧が安定しても随伴する症状の改善が見られず漢方薬の併用で種々の愁訴、自覚症状がとれることを経験する。結果：高齢者治療に於ける注意は、胃腸障害のない壮年期から高齢者の高血圧症では第一選択は八味地黄丸である。特に腰痛、前立腺肥大様症状等があれば良い適応である。大柴胡湯、防風通聖散等陽実証向きと処方は適応が少ない。麻黄を含む処方虚血性心疾患、重症高血圧等の合併症の有る症例には慎重投与が望ましい。考察：生活習慣病の予防にはライフスタイルの適正化、一次予防が重要で、全人的治療が必要である。そのうちの一つが漢方治療である。漢方薬自体の降圧作用は乏しく、高血圧の軽症例、自覚症状随伴症状の改善、患者のQOLの向上に有用であり、漢方単独治療、西洋医薬に併用する意義がある。漢方薬は症例によっては第一選択薬となりうる。生活習慣病には大変有用である。